

平成 28 年度三重四川災害対応連絡会 第 1 回櫛田川委員会 議事概要

1 日 時：平成 28 年 7 月 11 日（月） 14:40～15:40

2 会 場：松阪市産業振興センター 3 階研修ホール

3 出席者：委員会構成員

松阪市 竹上 真人市長

多気町 久保 行央市長

明和町 中井 幸充町長

三重県 県土整備部 施設災害対策課 倉田正明課長

同松阪建設事務所 服部喜幸所長

気象庁 津地方气象台 日当智明台長（代理：松木晃一郎防災管理官）

国土交通省 三重河川国道事務所 川村謙一所長

蓮ダム管理所 新高庸介所長

- 4 議 事： 1. 平成 27 年 9 月鬼怒川決壊の概要
2. 水防災意識社会再構築ビジョンについて
3. 現状の水害リスク情報や取組状況の共有
4. 減災のための目標（案）及び取組例について
5. 今後のスケジュールについて

5 議事概要

- ・ 5 年間で達成すべき目標、目標達成に向けた取組について確認し、了解を得た。

[出席者の主な発言]

- ・ 全国市長会で過去の災害について学ぶ機会があった。その中で消防庁の資料でホットラインの重要性を学んだ。国土交通省の排水ポンプ車は高性能だが、一言で言えば早い者勝ち。関東・東北豪雨では北海道から派遣してもらったと聞いている。国交省は、災害の際には即座に対応してもらえると感じている。
- ・ いつの時点で避難準備情報、避難勧告を発表・発令するかが非常に心配。真夜中に避難指示を発令できるかと言えはなかなかできないし、防災行動としてはできても垂直避難。
- ・ 鬼怒川では垂直避難でも命を脅かす結果となった。早く情報を得て、明るい内に避難の体制を整えられるか。空振りの恐れもあるかもしれないが、いち早く対応をしないと、市民の生命と資産を守れない。いかに早く対応できるかがこれからの課題。
- ・ 昨年度、栃木県では 24 時間で 500mm を超えた観測所があった。今までの経験では 24 時間雨量 350mm 以上や時間雨量 50mm で災害が発生している。避難準備情報や避難勧告、避難指示の発令をどうするかが非常に気になる。
- ・ 新しく防災計画を見直した。避難判断の基準として観測所の基準水位や避難所の見直しも行った。避難行動も、どの時期にするか、国土交通省や气象台からの情報を確認し、早めに対応を取っていききたい。
- ・ 平成 24 年の水防訓練では国交省からの排水ポンプ車、照明車を含めた訓練を実施。それだけでも地元住民には安心してもらっている。今後も一緒に訓練を実施したい。
- ・ 過去の洪水で櫛田川本川から離れている地区の人間には洪水時のリスク情報が理解されていないことが分かった。隣接自治体で避難準備情報や避難勧告の発令がされた際にも我が自治体は行動ができていなかったのが現実。
- ・ どの時点で避難情報を発令し、住民に伝えるのが良いのか判断に迷ったことがある。近くの支川の洪水の状況はつかめるが、櫛田川本川の上流で雨がどれだけ降っているかが分かりにくい。本川上流で集中豪雨が発生し、櫛田川の水位が上昇した際、いつ、どんな風に情報を地元の人に伝えれば良いのか心配になる。我々が状況を把握して伝えない

といけない。どこでどのように雨が降っているかという情報が欲しい。

- ・平成 16 年洪水の際、宮川村の役場にいた方に話を聞くに、当時役場の人間が得ていた情報と、その時に上流や下流で起こっていた情報が違っていた。発生している情報を掴んでなかったからあれだけの水害となった。リアルタイムで情報を得て、的確な避難指示を出すことが住民の安全を守るポイントである。
- ・浸水想定区域図の公表については住民の防災意識の向上につながるので感謝。ただし、100 年に 1 回の大雨というものが、決して過度な想定になっていないんだということに気をつけなければいけない。住民にもそこをきちんと説明しながら公表していく。
- ・櫛田川は蓮ダムのおかげでずいぶん助かっている。
- ・この水位レベルであれば避難準備情報であるという目安が必要で、それを住民に分かり易く説明する必要がある。単にこの水位になると避難ですよと説明しても住民に理解が得られない。いかに分かりやすく説明するかが我々の仕事。
- ・減災に向けて、毎年避難訓練を実施。水害対策避難訓練や土砂災害による避難訓練、自主防災組織、消防団、全住民に声をかけて実施している。土砂災害が一番気になっている。どの時点で避難を呼びかけるのが非常に難しい。どのような状態で土砂崩れが起きるのか分からない。飽和状態が分かればありがたい。
- ・海拔ゼロメートル地域が下流部にあり、満潮時の大雨の時は排水機場を早めに稼働させている。櫛田川堤防が決壊しない限りは心配はないと思っているが、支川祓川の手つかずの堤防老朽化が心配。祓川は二級河川であるが、どうしていくかが課題。櫛田川から離れている住民の意識をどうすればいいかも大きな課題と考えている。

以上を踏まえて、連絡会構成員で協力して取組方針をとりまとめていくことを確認した。

以上

(事務局作成)